様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：１２６１１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2014
課題番号：２２５２０２３２

研究課題名（和文）小型版対訳古典テキストの普及と１５８０年代の英詩・英国演劇

研究課題名（英文）The Dissemination of Small-Format Editions of Greek-Latin Parallel Texts, and Their Influence on English Poetry and Drama in 1580s

研究代表者
清水　徹郎（SHIMIZU, Tetsuro）

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授

研究者番号：６０２３５６５３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：1490 年代以降印刷技術改良が進み、16世紀中葉に十六折判で希羅対訳古典テキストが、大学生向けに大量に流通するに至った。本研究は初期近代英国の古典文学受容に大型本読者層文化と小型本読者層文化とで明らかな違いがあると推測し、16世紀後半以降の英国詩人たちの古典受容と神話創造の様態を調べた。マーロウとシェイクスピアには後者、チャップマンには前者の影響が見え、ジョンソンは後者の傾向が強いが決めがたい。マーロウが神話創造に熱心だった一方、シェイクスピアは古典受容を同時代の心理的問題として分析的に描いたと言える。チャップマンは庇護者探しに苦労した故か、特異な形で古典の権威を必要としたと推測される。

研究成果の概要（英文）：Printing technology developed rapidly after 1490s, and several printers in the mid-sixtenth century produced low-price, sextodecimo bilingual editions of classical Greek literature, aiming to sell them to university students. These editions are known to have actually sold on a massive scale. This study assumed that small editions and large editions of classical Greek literature individually led to two different cultures, and examined the cases of late-sixteenth and early-seventeenth century English drama and poetry. Christopher Marlowe was keen on creating boldly new etiology, while Shakespeare tended to be more realistic and in one way “psychoanalytic.” Ben Jonson’s reception of classical Greek literature needs further investigations, though he may have belonged to the same culture as Marlowe and Shakespeare. George Chapman seems to have made much of classical authority in his peculiar way, probably because he was constantly seeking patronage.

研究分野：英語英米文学

キーワード：印刷文化　古典文学受容　初期近代　英国演劇　英詩　シェイクスピア　マーロウ　チャップマン

１．研究開始当初の背景

初期近代英国詩人古典受容研究の一環としてクリストファー・マーロウ(Christopher Marlowe)の小叙事詩『ヒアロウとレアンダー(*Hero and Leander*)』や「羊飼いの恋歌(The Passionate Shepherd to His Love)」の典拠となった古代ギリシア語作品の印刷本を調査する過程で、現在までケンブリッジ大学図書館他各所に残る初期近代の印刷本のうちに十六折判などのきわめて小型のものが多く存在することに気づいた。従来英文学との関係ではあまり研究対象として考察されることのなかった学生向け小型版のギリシア語・ラテン語対訳印刷本が、英国の大学においても 16 世紀後半以降急速に普及した痕跡がある。その類いの普及本を使用した古代文学受容の様態を、古典文学受容史分野の先行研究(Philip Ford、Manuel Baumbach & Silvio Baer、Anthony Grafton、Lisa Jardine、Robin Sowerby 他)と書誌学的先行研究(H. M. Adams、J.-F. Gilmont、Philip Ford、H. S. Leedham-Green、Philip Gaskell 他)を確認・活用しつつ、さらに実際に一次資料にあたり初期近代英国詩人たちの作品と比較・検証することによって、その影響関係を歴史的に考究する研究計画を構想するに至った。

２．研究の目的

本研究計画の主たる目的は、以下の通りである

(1)ジュネーヴ他スイスの印刷業者を中心に 16 世紀中葉以降のヨーロッパ大陸における印刷・出版事業における、とくに古代ギリシア詩の編纂過程と印刷本の流通状況を調査し、それと同時代英国の大学生・詩人達の読書事情との関係を考察する。

(2)古典文学テキストを採録した印刷本の判型(二折、四折、八折、十二折、十六折)の多様性と初期近代英国社会における古典受容の多様性との関係、およびその中での詩人の個性の問題を検証し、とくに小型本を受容したと推測される人々が生み出した文化の特徴を記述する。

(3) クリストファー・マーロウ、ウィリアム・シェイクスピア(William Shakespeare)、ジョージ・チャップマン(George Chapman)、ベン・ジョンソン(Ben Jonson)を中心に英国初期近代の大衆劇場作家・詩人達による古典文学受容と模倣、さらには独自の神話創造の手法を明らかにする。とくに初期近代にあらたに創作された起源神話の特徴を調査分類し、模倣・神話創作と初期近代社会の時代精神との関係を明らかにする。

(4)英国初期近代のギリシア文化・文学の受容経路は、ラテン文学経由での間接的受容が主流であったことに間違いないが、15 世紀後半以降、印刷技術の急速な進歩も一要因となって、ギリシア語テキストが一般に入手可能な形で出版され、市場でも流通するようになり、さらに初学者向けにギリシア語・ラテン語対訳テキストが廉価な小型の印刷本で入手できるようになった。本研究は、16 世紀中葉以降顕著になった上記のような状況の変化から判断して、従来考えられていた以上に、16 世紀後半英国の大学生・文人・詩人たちは原語でギリシア古典文学に接するようになっていた可能性が高いという推測を行い、その仮説を、文献学的先行研究等を活用しつつ、現存する 16 世紀印刷本に関する資料にも直接調査を行って検証することを目的とする。

(5)初期近代の人文主義理念に典型的に現れているように、一般に、ギリシア・ローマの古典文学は知の権威として機能していたと考えられている。しかしながら、初期近代社会における古典文学の受容はすでに多種多様なものになりつつあり、必ずしも権威としてばかり機能していた訳ではなかったと観察される。本研究は、古典を専門としない、当時の一般大学生が使用したと想定される印刷本テキストの傾向に注目し、当時の古典受容の様態がきわめて多様であったことの検証を試みる。

(6)十六折判など廉価な普及版印刷テキスト読者と二折判など高価な権威的印刷テキスト読者とで、古典文学受容に関してもきわめて性質の異なる文化をそれぞれに形成していったと本研究計画では推測するが、その具体的な差異の例を 1580 年代以降に活躍した複数の英国詩人の作品を比較することによって確認する。

３．研究の方法

(1)16 世紀大陸の印刷業とその出版物について歴史的・書誌学的先行研究(Philip Ford、Manuel Baumbach & Silvio Baer、Anthony Grafton、Lisa Jardine、Robin Sowerby、H. M. Adams、Jean-François Gilmont、H. S. Leedham-Green、Philip Gaskell 他）の成果を確認して、それを英国詩人・劇作家における古典文学受容の問題に結びつける形で発展的に応用する。

⑵現存する 16 世紀印刷本のテキストを調査し、判型や出版地・出版年代などによる流通状況の違いを検証して、初期近代英国大学生のテキストとしての可能性を考究する。現存印刷本の実地調査は、英国ケンブリッジ大学図書館と大英図書館の蔵書を中心に行い、さらにオンラインでアクセス可能なデジタル・アーカイブ（Google、フランス国立図書館の Gallica、ProQuest の Early EuropeanBooks 他）を活用する。また 16 世紀中葉以降広く流通していた廉価版小型印刷本は、かなりのものが現在も古書市場で流通しているので、必要な場合には本研究代表者所属研究機関の附属図書館を通して調査用に購入する。

⑶初期近代英国詩人における古典文学受容の多様性と個性の問題を、詩・演劇テキストの読解および各詩人の置かれた歴史的状況との両面から調べ考究する。Thomas Greene

が提唱する模倣と時代錯誤の詩的手法(imitation and anachronism) に関する理論、さらにはJacques Lacanの精神分析批評でも言及される換喩(metonymy)論等を部分的に援用し、小型版ギリシア語・ラテン語対訳版の普及・流通によって、古代ギリシア詩のテキストと直に接触することが可能になった詩人たちが感じたはずの、古代との断絶観と初期近代の精神状況を踏まえた新しい起源神話の創出の過程を考察する。

４．研究成果

(1)16 世紀後半ジュネーヴの印刷業者 H・ステファヌス(Henricus Stephanus)、ジャン・クレスパン(Jean Crespin)、ユスタシュ・ヴィニョン(Eustache Vignon)については、Jean-François Gilmontらによる詳細な書誌学的研究の成果に大きく依存しつつ、本研究で独自に行ったテキスト分析による考察を加えて、編纂・印刷・販売戦略における特徴・相違をある程度明瞭に推測することができるようになった。英国での流通・販売の点では、1560年代頃からジャン・クレスパンおよびその後継者ユスタシュ・ヴィニョンのビジネス戦略が成功し、英国における学生向け小型対訳古典テキストの普及が進んだ可能性が高いという結論を得た。

(2)クリストファー・マーロウの『ヒアロウとレアンダー』、「羊飼いの恋歌」の可能的種本として、ジュネーヴのユスタシュ・ヴィニョン印刷による十六折判対訳ギリシア詞華集(*Vetustissimorum Authorum … poemata quae supersunt*)が有力であるという推測結果を得た。すなわちもと 1570 年にジャン・クレスパンによって編纂・印刷された十六折判ギリシア語・ラテン語対訳ギリシア詞華集に、ヘシオドス叙事詩、叙情詩、ヘレニズム時代の牧歌詩、警句詩などを幅広く収録したものがあり、よく普及した。例えばモンテーニュ(Michel Eyquem de Montaigne)の『随想録(*Essais*)』のギリシア詩の引用はそのほとんどをクレスパンの印刷のアンソロジーに依っていることが先行研究(Pierre Villey)によって知られていた。クレスパン印刷所の後継者であるユースタス・ヴィニョンは、よく流通した上記アンソロジーを何度も改版・増刷して収益を上げたことが、ジャン・フランソワ・ジルモンの研究によってかなり正確・克明に推測されているが、本研究計画で独自に検証した結果を加えて推測することで、その中でもヴィニョンによる 1584 年の再版が、マーロウの使用したテキストとしてきわめて有力であるという状況が明らかになってきた。またそれと同時に、同印刷所から同じ体裁でやはり大学生向けに印刷・出版・流通が行われたホメーロス詩の十六折判アンソロジーも、マーロウの使用したテキストであった可能性が見えてきた。ホメーロス(Homerus)、ヘシオドス(Hesiodus)、テオクリトス(Theocritus)、ムーサイオス(Musaeus Grammaticus)の他に、コルートス(Colluthus)の『ヘレネーの略奪(*Hellenae Raptus*)』といったギリシア語小叙事詩(エピリオン)なども、当時の大学生向けに、同じくギリシア語・ラテン語対訳の普及版として、英国を含め広く流通していたことが確認できるからである。その手の印刷本の価格が大型本と比べてはるかに安価で、元来の販売ターゲットであった大学生はもとより、広く一般に購入が容易であったことの意味がこの場合多い。

(3)シェイクスピアとベン・ジョンソンのテキスト分析から、大衆劇場で活躍した劇作家たちが小型印刷本の急速な流行に敏感に対応していることが検証できた。シェイクスピアやベン・ジョンソンはいわゆる「大学出才人」劇作家たちとは違う経歴を持つので、大学生向きの本の流通・受容の問題に関しても別な視点から考察する必要があるが、彼らの演劇作品のテキスト中には、同時代の小型印刷本流行の問題への強い関心の痕跡が散見し、同じ文化的状況の中で彼らの古典文学受容の問題を再考する必要があることが明らかになってきた。シェイクスピアは、従来、古典語の知識に乏しい詩人と信じられてきたが、近年の再評価で、人文主義教育を受けてそれなりにラテン語・ラテン文学の知識があったことが確認されている。大学教育を受けていなかったシェイクスピアに古典ギリシア語の十分な知識があったとは考えられないが、上述のようにギリシア語・ラテン語対訳テキストが巷間に広く流通するようになっていた状況を考慮すると、そのような新しい読書文化の流行が、詩人にとってきわめて身近な現象になっていたことは間違いない。実際、シェイクスピアが古代に時間設定した作品の中で、古代の英雄が印刷文化の時代を彷彿させる読書を行う場面などが描かれている。意図的な時代錯誤の手法で、詩人は同時代の流行を踏まえて詩的・演劇的効果を狙ったものと解釈できる。シェイクスピアにおける古代ギリシア文化の受容は、人文主義的な古代再発見の情熱と失望を客観的にとらえ、同時代思潮として、いわば社会が抱える精神病理の一種として、詩的・演劇的に表現し直したと言える。古典文学に関して博識をもって知られたベン・ジョンソンにおいても、そのような詩的・演劇的姿勢においてシェイクスピアと共通したところが見られる。マーロウ、シェイクスピア、ジョンソンに見る限り、古典受容そのものを同時代的現象として新しい起源神話を生み出していったところで共通性があるが、その一方で各詩人によって創作された新しい起源神話がきわめて個性的で多様であることも明らかである。

(4)マーロウ、シェイクスピア、ジョンソン、チャップマンにおける古典受容の特徴を比

較し、新しい神話創造の点で個性的な違いがあることがある程度確認できた。それは詩人の資質の違いであるとともに、各詩人の置かれた状況の違いでもある。マーロウは伝記的に不明な点の多い作家であり、その個性的神話創造の仕事を固有の状況と関連させて論じるのは困難だが、シェイクスピアやジョンソンと合わせて考察する限り、詩人兼劇作家であった彼らが、同時代の古典受容の多様さと流行の状況をきわめて鋭敏に観察していたことが、推測結果として得られた。またチャップマンの場合には、上記の詩人達の置かれた状況との違いが顕著で、パトロン探しに非常に苦労したという状況などから、古典文学と詩人の権威を、きわめて特異な形で強調した形跡が見られる。その結果チャップマンは、良く知られるように極度に難解な神話をその詩において創出することになった。そしてこのチャップマンの場合、マーロウ、シェイクスピア、ジョンソンがその詩的イメージ等から想像させる読書傾向とは異なって、古典文学模倣・翻訳の種本に二折判の権威ある刊本の使用を強調したという事実も確認できる。使用するテキストの判型の違いが、その読者層が形成する文化の差異に繋がるという本研究の立てた予想の蓋然性を証する一例と言えよう。

(5)古典受容の形態が従来想定されていたよりもはるかに多様であることが本研究計画実施によって確認できたので、例えば初期近代英国詩人達におけるその後の独自の個性的神話創造過程の問題の考究などの形で新しい研究へと繋げる基盤ができ、展望が開けてきたと言える。これは Thomas Greene が著書 *The Light in Troy: Imitation and Discovery in Renaissance Poetry*(1982)で提唱した理論を、英国初期近代の詩・演劇に援用・発展させたものである。

(6)初期近代英国におけるホメーロス受容の問題に関して、従来の研究ではギリシア語版からの直接的受容の可能性は低いと推測される傾向があったが、Lisa Jardine、H. M. Adams、H．S．Leedham-Green、Philip Gaskell らの先行研究に依存して本研究計画を進め、大学の教科書として用いられたテキスト等を調査した限りでは、ホメーロスも当時の大学学部生の間で多く読まれた詩人の筆頭格にあり、ギリシア語・ラテン語対訳版が広く普及していたことと考え合わせると、ラテン語訳に頼りながらもギリシア語で原詩に触れていた可能性が高いことが確認できた。初期近代英国詩人におけるホメーロスおよびギリシア詩受容の研究方法を従来のラテン語テキスト中心主義から微修正して行くことが必要であるという状況を確認し、受容研究と英国文化研究の方向として一つの新しい可能性を本研究は提示した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　３　件）

① SHIMIZU, Tetsuro 、Making 'blind Homer sing to me': 16th-Century Student Editions of Greek Poems and Marlowe's Art of Imitation 、*Shakespeare Studies*、Vol. 50、2012 (published 2013)、16-36 、査読有
② 清水徹郎、『ヒアロウとレアンダー』の「海を行く婚礼」－ ヘレニズム時代の小叙事詩からマーロウと祝祭喜劇の世界へ 、日本英文学会第 83 回大会 Proceedings、2011、37-39、査読無
③ 清水 徹郎、マーロウの牧歌と 16 世紀の印刷本ギリシア詞華集、日本英文学会第 82 回大会 Proceedings、2010、50-52、査読無

〔学会発表〕（計　５　件）
① 清水 徹郎、ユリシーズ何をお読みかね － シェイクスピアと『イーリアス』の本、第 53 回シェイクスピア学会、2014 年 10 月 11 日、学習院大学
② SHIMIZU, Tetsuro、François Portus, Isaac Casaubon, and Marlowe's Reading of Greek Poetry 、Seventh International Marlowe Conference、2013 年 6 月 27 日、Staunton, VA
③ 清水 徹郎　他、祝祭・儀式・婚姻の表象、第 50 回シェイクスピア学会、2011 年 10 月 23 日、清心女子大学
④ 清水 徹郎、『ヒアロウとレアンダー』の「海を行く婚礼」－ ヘレニズム時代の小叙事詩からマーロウと祝祭喜劇の世界へ 、日本英文学会第 83 回大会、2011 年 5 月 22 日、北九州市立大学
⑤ 清水 徹郎、マーロウの牧歌と 16 世紀の印刷本ギリシア詞華集、日本英文学会第 82 回大会、2010 年 5 月 30 日、神戸大学

〔図書〕（計　１　件）
① 清水 徹郎　他、研究社、シェイクスピアと演劇文化 － 日本シェイクスピア協会創立五〇周年記念論集、2012、225 (分担 18)、査読有

〔その他〕
非学術雑誌掲載短文
① 清水 徹郎、戦場のユリシーズのタブレット、ハムレットの本、メタポゾン、第 10 号、2013、204-208、査読無
② 清水 徹郎、対話の魔術とハムレット、メタポゾン、第 9 号、2013、76-80、査読無

６．研究組織
(1)研究代表者
清水　徹郎（SHIMIZU, Tetsuro）
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科
学研究科・准教授
研究者番号：　60235653

(2)研究分担者
（　なし　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　なし　）

研究者番号：